

4年一貫就業力育成プログラムとそれに基づく 初年次キャリア教育の実践

—大学生の就業力育成支援事業採択[自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム]—

田中徳一¹⁾・成行義文²⁾・平井松午³⁾

¹⁾ 就職支援センター・キャリア教育推進室, ²⁾ 大学院ソシオテクノサイエンス研究部,
³⁾ 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1. はじめに

2010年2月に大学設置基準が改正され、2011年4月より大学生の社会的・職業的自立を支援するキャリアガイダンスが求められることとなった。その目的は、学生が入学時から自らの職業観・勤労観を培い、社会人として必要な資質・能力の形成を目指すことにある。

新基準に対応するために徳島大学総合科学部および工学部では、学生の職業観を培い、社会人として必要な資質・能力を育成することを目的に、キャリア教育の共同プログラムを策定した。本プログラムは平成22年度に文科省が募集した「大学生の就業力育成支援事業」に採択され、これを契機に、本学でも平成23年度より本格的な4年一貫のキャリア教育が開始された。

本報告では、この「巣立ちプログラム」の概要ならびに本プログラムに基づいて平成23年度前期に実施された初年次キャリア教育科目の授業展開・アンケート評価等について発表する。

2. 「巣立ちプログラム」の概要

図1に巣立ちプログラムの概要を示す。本プログラムは幅広い職業人育成に携わる総合科学部ならびに工学部を対象としており、全学組織である「就職支援センター」(2010年11月設置)主導の下に実践し、両学部学生の就業力向上を図ることを目的としている。

本プログラムにおけるキャリア教育の主な特徴として次の①～③が挙げられる。

① 4年一貫の就業力育成プログラム

初年次学生に対しては、自らの職業観・勤労観育成の動機づけを目的に、前期「キャリアプラン入門Ⅰ」および後期「キャリアプラン入門Ⅱ」を開講している。2年次前期の「キャリアプランⅠ」では業種別に招聘した外部講師によるジョブリサーチ講座を、また後期の「キャリアプランⅡ」では先輩(4年生)の体験報告等を通して具体的な就業力育成方法を学ぶ。さらに3

年次前期の「インターンシップ」では働くことを体験するとともに、専門知識や技術がいかに活用されているかを学ぶ。最後に、4年次後期の「キャリアプランⅢ」ではポートフォリオをもとに就職活動体験レポートを作成し、巣立ちプログラムを修了する。

② Webポートフォリオの活用

本取り組みでは、「キャリア学習ポートフォリオ」と名付けられたWeb版ポートフォリオシステムを構築・運用している。Web版ポートフォリオは、いわばWeb上で運用するキャリアデザインノートで、学生は社会から求められる基礎力や特性を客観的に自己評価することができる。

③ キャリアデザイン伝承システム

4年次後期の「キャリアプランⅢ」では、受講学生がインストラクターとして「キャリアプランⅡ」(2年次後期)の受講生に対して、自らの就職活動に関する体験を伝えるとともに、直接アドバイスを与える「先輩から後輩への体験伝承システム」が組み込まれている。



図1 巣立ちプログラム

表1 キャリアプラン入門Ⅰ授業内容

| | 総合科学部 | 工学部 |
|----|------------------|------------------|
| 1 | 授業の進め方について | ガイダンス |
| 2 | 総合科学部で何を学ぶ | キャリア学習ポートフォリオ利用法 |
| 3 | 大学と地域のコラボレーション | 社会人基礎力とは |
| 4 | 高校と大学での学びの違い | 新聞を使って「考え抜く力」を養う |
| 5 | 読書と人生 | ビジネスコミュニケーション |
| 6 | レポートの書き方 | 技術者の倫理 |
| 7 | 社会人になるということ | 技術者と企業 |
| 8 | 巣立ちプログラムとは | 企業と使命 |
| 9 | キャリア学習ポートフォリオ利用法 | 社会の仕組み |
| 10 | 求められる社会人基礎力 | 企業を取り巻く環境の変化① |
| 11 | ビジネスコミュニケーション | 企業を取り巻く環境の変化② |
| 12 | ネットワークと大学 | 企業とその戦略 |
| 13 | 地域産業と職業 | 技術者として先輩の話聞く |
| 14 | 大学と企業 次代の若者へ | 技術者として自らの夢語る |
| 15 | 全体のまとめ(総括授業) | 技術者としてのライフプランの作成 |

表2 キャリアプラン入門Ⅰアンケート結果

| No. | 質 問 | 学部 | はい (%) | いいえ (%) | どちらとも 言えない (%) |
|------------------------|-------------------------------|----|--------|---------|----------------|
| 1 | 本授業はあなたの進路を考える上で役に立ちましたか | 総科 | 73.3 | 6.5 | 20.3 |
| | | 工学 | 55.9 | 14.0 | 30.1 |
| | | 全体 | 60.8 | 9.7 | 27.0 |
| 2 | 本授業で、大学での学習目標が明確になりましたか | 総科 | 44.8 | 14.2 | 40.9 |
| | | 工学 | 40.7 | 22.4 | 36.9 |
| | | 全体 | 41.9 | 18.1 | 38.5 |
| 3 | 本授業で、将来の職業、就職に対する不安は小さくなりましたか | 総科 | 23.7 | 38.8 | 37.5 |
| | | 工学 | 26.1 | 39.9 | 35.0 |
| | | 全体 | 25.4 | 39.4 | 36.2 |
| 4 | 社会人基礎力(就業力)の向上は必要と考えますか | 総科 | 93.5 | 1.3 | 5.2 |
| | | 工学 | 88.9 | 2.9 | 8.2 |
| | | 全体 | 90.2 | 2.1 | 7.3 |
| 5 | Web版ポートフォリオは使いやすいかったですか | 総科 | 40.1 | 21.1 | 38.8 |
| | | 工学 | 34.4 | 31.2 | 34.4 |
| | | 全体 | 36.0 | 25.8 | 36.2 |
| 6 | Web版ポートフォリオは今後も活用していこうと考えますか | 総科 | 37.9 | 19.8 | 42.2 |
| | | 工学 | 18.2 | 34.2 | 47.6 |
| | | 全体 | 23.7 | 24.5 | 45.6 |
| 回答総数826(総科:232 工学:594) | | | | | |

3. キャリアプラン入門Ⅰの授業展開

ここでは本年度前期に実施された初年次科目の「キャリアプラン入門Ⅰ」の授業概要を示す。

本授業は総合科学部1クラス(274名)、工学部3クラス(計631名)編成で実施した。各学部の講義内容は表1に示す通りである。

両学部におけるこの科目の授業目的等は同様であるものの、上表のように若干構成等が異なっている。ここでは紙面の都合上、全くの新規科目として設定された工学部の授業を対象として説明する。

いずれのクラスも200名を超える大人教授業になることから、工学部の3クラスでは学籍番号順の座席指定とし、空席をチェックすることで出欠確認の効率化を図った。最初は戸惑いも見られたが、2回目以降は軌道に乗り、授業時間のロスを最小限に抑えることができた。また、見やすく分かり易い授業とするため、パワーポイントによるスライドおよびマイクなどの視聴覚機器を多用した。さらに将来のeラーニングシステム活用にも対応できるように授業風景を動画で保存するようにした。

Webポートフォリオの利用促進を図るための工夫としては、毎授業時にショートレポート用紙を配布し、内容の取りまとめとポートフォリオの「学習記録」ページへの入力を義務付けた。さらに入力内容については各学科担当教員による評価を成績評価に考慮することで、記入回数・内容ともに向上した。

一方、キャリア教育は「気づき」の教育とも言われている。これを進めるための各種企業・団体等に対し関連学科への外部講師の派遣を積極的に働きかけた結果、十数社に及ぶ企業・機関等の協力を得て、現場に即したより実践的な授業の展開が可能となった。

4. キャリアプラン入門Ⅰの授業評価

キャリアプラン入門Ⅰの最終回に、学生を対象に実施したアンケート結果(抜粋)を表2に示す。

表2 No.4より、とりわけ若年層に不足していると言われている「社会人基礎力」の必要性を、総合科学部で93.5%、工学部で88.9%もの学生が感じていることがわかる。

また、同表No.3より、将来の職業・就職に関する不安は本授業ではあまり解消されていないことがわかる。これは授業を通して現状を理解することでむしろ認識を深めたためと思われる。

同表No.5より分かるように、Web版ポートフォリオの使用性に対する評価は必ずしも高くない。これは、Web版ポートフォリオが現時点では学内からのアクセスに限定されているためであり、将来、外部からのアクセスが可能になれば大幅に改善されるものと思われる。

5. おわりに

初年次開講のキャリアプラン入門Ⅰ(前期)およびキャリアプラン入門Ⅱ(後期)の進捗状況は概ね良好であると言える。一方、200名を超えるこれらの大人教授業では、より実践的なグループ演習等の実施は難しく、また成績評価もレポート評価を中心としたものにせざるを得ない等、課題も多い。今後、さまざまな分野の外部講師にご協力いただくとともに授業方法をさらに工夫することにより、学生のキャリアデザインへの関心と策定能力をさらに高めるべく努力してゆきたい。なお、詳細についてはカンファレンス当日にポスターにて説明する予定である。